

RIETI EBPM シンポジウム  
エビデンスに基づく政策立案を進展させるために

パネルディスカッション

大竹 文雄  
大阪大学大学院経済学研究科教授

2019年12月25日

主催:独立行政法人経済産業研究所 (RIETI)



大阪大学  
OSAKA UNIVERSITY



OPEN 2021

# EBPMの実装について

大竹文雄（大阪大学）

# EBPMが必要な分野

- 政策を行うべきとはわかっているが複数の選択肢のうち何が最も効果的か分からない場合
- 特定の政策が有効な政策である可能性が高いが予期せぬ副作用がある可能性
- 今まで行ってきた政策の政策効果を検証し、効果が小さければ改善したい

# 撤回された人生会議のポスター



病気などで回復の見込みがなく死期が迫る終末期にどのように過ごしたいか、事前に家族らと話し合う「人生会議」の啓発ポスターが批判をあびて撤回

『医療現場の行動経済学』大竹・平井編	%	p	
残念ですが、がんに対する治療をこれ以上行うことはできません。もしどうしてもということであれば治療Cもありますが、医学的に十分な効果は示されておらず、副作用が生じます	21.6	-	みすてらたように感じたつらいと感じた
治療Cという方法もありますが、医学的に十分な効果は示されておらず、副作用が生じます。以上の話をまとめると、残念ですが、私としては、これ以上の治療を行わないことがあなたにとって最善の選択だと考えます	18.1	0.35	みすてらたように感じたつらいと感じた
治療Cという…。あなたと同じような状況では、多くの患者さんが、これ以上の治療をしないことを選ばれています。	20.1	0.60	
治療Cという…。治療をしないことで、副作用がなくなるだけでなく、退院してご自宅で過ごしたり、外出したりすることができるようになります。	16.4	0.10	
治療Cという…。治療をしないことで、副作用がなくなるだけでなく、退院してご自宅で過ごしたり、外出したりすることができるようになります。そうすることで、あなただけでなく、ご家族にとってもよい時間を過ごすことができると考えられます。	22.5	0.96	
治療Cという…。なお、治療を受ける場合、社会保険料(国への負担)が1,000万円かかります。	15.3	0.09	みすてらたように感じた改善の必要がある

# 広島県の防災ナッジ

- A:早めに避難できた人の多くは周囲の人が避難していたからでした。あなたが避難すると人の命を救うことができます
- B:早めに避難できた人の多くは周囲の人が避難していたからでした。あなたが避難しないと人の命を危険にさらします
- Bの方が効果が大きいうという結果であったが、Bの方が同調圧力が強く、被害が出た場合の責任感を強くさせ、心理的負担が大きい
- 実務では基本的にAを用い、Bは例外的に用いる
- ナッジは大きな金銭的インセンティブをかけないものだが、大きな心理的インセンティブもかけない方が望ましいと考えられる

# RCTが行えるものは行って検証する

- 行政において行動経済学的なメッセージ介入が政策手段になってきている
- このタイプのものは比較的簡単にRCTで有効性をチェックできる

# 過去の政策の有効性を検証したい

- 政策を行う前から政策の有効性の検証ができるようにしておかないと、厳密な効果検証は難しい
  - どこかにランダムな要素を入れておく (RCT)
  - 特定の基準を設けてその基準の周辺で比較できるようにしておく (RDD)
  - それまで同じグループのうちの一部に制度を適用して検証できるようにする (DID)
- データを電子化し統合化できるように整理しておく

# 実務担当者のメリット

- データを新たに集めるために負担を増やすのではなく、業務データから作成できるようなデータをうまく蓄積
- EBPMが実務担当者にメリットを感じられるものに